

平成15年3月20日  
気象庁予報部

## 配信資料に関する技術情報(気象編)第127号 ～台風の暴風域に入る確率の改善について～

暴風域に入る確率は台風予報の補足資料として平成4年に提供を開始しました。しかし、対象が29地点と少なく、また、提供している値が24時間以内に暴風域に入る確率という、空間・時間分解能の粗いものでした。そこで、台風の影響時間帯についての情報を時間的・空間的にきめ細かくする改善を実施します。

この変更のため、新たに、「台風の暴風域に入る確率」電文(FXJPi RJTD:ii=51～56)を配信します。なお、現電文(FXJP40 RJTD)については平成15年12月まで配信を継続することとします。

### 1. 実施日

実施期日は、今年6月1日以降で、台風が無い状態で発生した最初の台風からとします。

### 2. 改善内容について

全ての最小細分区域(注意報警報に用いる細分区域のうち、二次細分区域、二次細分区域のない一次細分区域及び一次・二次細分区域のない府県予報区:平成14年度末現在で計356)及び小笠原諸島(父島、母島)を対象とします。時間帯については、48時間先まで3時間ごとの各時間帯に暴風域に入る確率の値、24時間以内、及び、48時間以内に暴風域に入る確率を提供します。これによって、全国どの地域でも、台風の大きな影響がいつごろ現れそうか、その時間帯のめやすが得られるようになります(図1)。また今後細分区域が増えた場合には、それに対応して対象区域を細かくして発表します。

### 3. 確率を計算する台風

2個までの台風について、1日4回、72時間予報を発表する03時(18UTC)、09時(00UTC)、15時(06UTC)、21時(12UTC)の台風解析予報情報電文の内容に基づいて確率を計算します。ただし、日本に影響を及ぼすおそれのある台風が3個以上ある場合には最大3個まで計算します。台風の選択は、中心が日本からおおむね300km以内にある台風をまず優先し、その他の台風については、日本への影響がより大きいと予想されるものから順次選択します。

#### 4. 電文の配信時刻

原則として、1個目の台風は解析時刻(予報の初期時刻)から約60分後に、2個目以降の台風は約80分後に配信します。ただし、2個目の台風が日本列島からおおむね300km以内にある場合は、約60分後に配信します。

なお、2個目以降の台風についても、ヘッダは同じものを使用します。

#### 5. 電文の形式

札幌・仙台・東京・大阪・福岡管区气象台及び沖縄气象台のそれぞれの管内の最小細分区域ごとに電文(FXJPii RJTD : ii=51(沖縄管内)、52(福岡管内)、53(大阪管内)、54(東京管内)、55(仙台管内)、56(札幌管内))を作成します(小笠原諸島については東京管内に含めます)。形式は、細分区域ごとに1行を割り当て、その中に注意報警報に用いる区域コード(ただし、小笠原諸島は9901とします)、48時間先まで3時間ごとの確率時系列、24時間以内に暴風域に入る確率、48時間以内に暴風域に入る確率の順で値を記述し、これを予報区の数だけ繰返します。ただし、確率の値が全て0%である細分区域は除きます。電文例を別紙に示します。

#### 6. 電文の配信先

全国版分岐からは全国分の電文を配信します。地方版分岐からは、当該管内の電文のみを配信します。

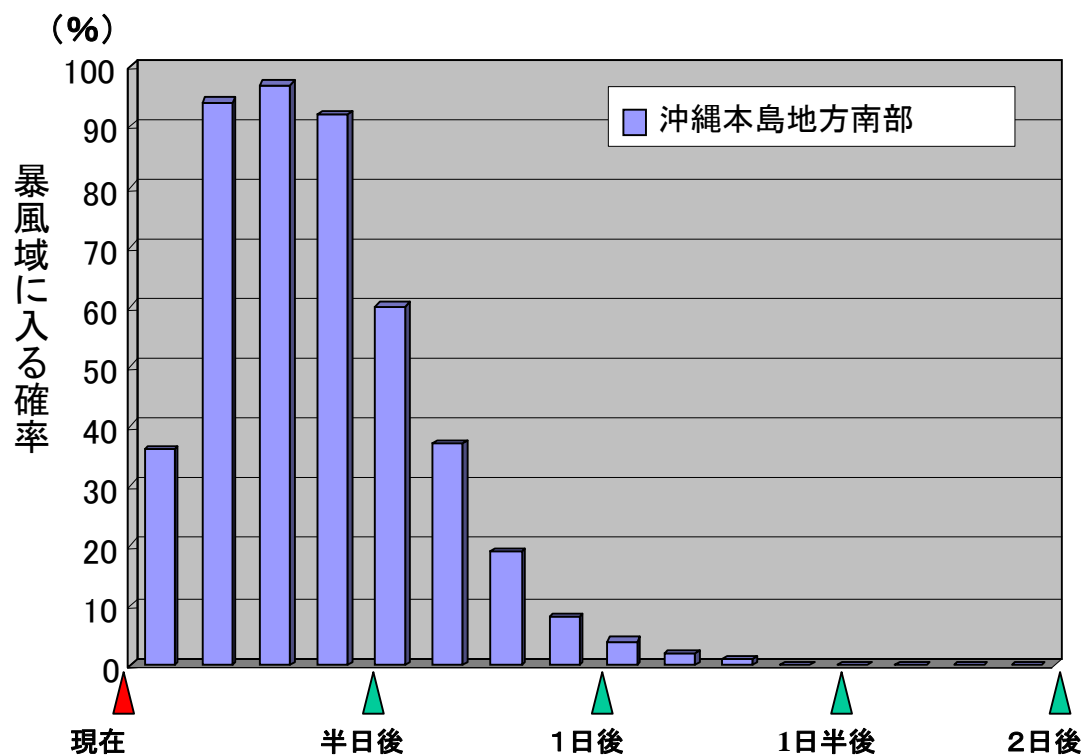


図1 暴風域に入る確率の時系列の例

## 台風「暴風域に入る確率」の電文形式



※1：管区・沖縄気象台の管轄ごとに電文を区別する。(ii=51 (沖縄管内)、52 (福岡管内)、53 (大阪管内)、54 (東京管内)、55 (仙台管内)、56 (札幌管内))

※2：この台風番号(0207)と電文番号(24)を持つ台風解析予報情報電文の内容に基づいて計算された確率であることを示している。

※3：確率の行の書式

NNNN	区域コード
Ppp	3時間ごとの確率 (%)
P24	24時間以内に暴風域に入る確率 (%)
P48	48時間以内に暴風域に入る確率 (%)
s	スペース

(注) 確率の値が全て 0% である細分区域は省略する。よって、管内全ての細分区域の確率が 0% の場合には、確率の行はなく、予報時間の行の次が終端符号 (END) の行となり、5 行だけの電文となる。

※4：確率 (%) は小数第 1 位を四捨五入して整数で報じる。